

## 現場の”今”の状況を知る AI アシスタント「BizStack Assistant」、 回答情報ソースの明示機能を追加

生成 AI と IoT のチカラであらゆる“現場”の DX を進めるソリューションを提供する MODE, Inc.（本社：米国カリフォルニア州サンマテオ、CEO：上田 学、以下、MODE）は、2024 年 5 月 1 日より正式版をリリースした「BizStack Assistant」の情報ソースの明示機能を追加しましたのでお知らせします。機能は 2024 年 6 月 11 日より、順次お使いいただけます。

機能アップデート 2024年6月

現場の”今”の状況を知る AI アシスタント  
「BizStack Assistant」  
回答情報ソースの明示機能を追加

### 追加機能の概要

BizStack Assistant は、以下の 3 つのデータソースを参照して回答しています。

- 機器やセンサー等 IoT 機器からのデータ取得: Entity メトリクス取得
- 各企業毎の業務知識の取得: Knowledge Base の検索
- 大規模言語モデル (LLM) の持つ一般的な知識

今回のアップデートは、BizStack Assistant の回答がどのデータソースを参照したものであるかを明示するようになりました。

Entity メトリクスのデータや Knowledge Base のデータは正確ですが、大規模言語モデル (LLM) からの情報は正確性や最新性に欠ける可能性があるため、確認が必要であることをユーザーに促します。

### ユーザーのメリット

企業が生成 AI を導入する際に必ず懸念事項になる要因の 1 つとして、生成 AI の幻覚症状 (ハルシネーション) があります。人間からの質問に対して、事実ではないことを事実のように回答する生成 AI の特徴です。人間からの質問に対する回答を知らない場合でも、なんらかのアウトプットをすることを優先するためです。

正しい答えを返しているかどうかは、人間側で判断する必要があります。経験の浅い新入社員の業務を場長が確認する作業に似ています。

そこで、生成 AI の回答にデータソースを明示することで、BizStack Assistant の回答の裏付けを明確にし、人間側で、その回答の妥当性を判断できるようになりました。



**Hyuma Watanabe** 8:25 PM

MODEの社長は誰？



**BizStack Assistant - dev** APP 8:25 PM

MODEの社長は上田ガク氏です。

回答はKnowledge Baseを元にしていきます。 (edited)



**Hyuma Watanabe** 8:24 PM

Factory1のLine2の 12:24 のOEEを教えてください



**BizStack Assistant - dev** APP 8:24 PM

Factory1 Line2の12:24のOEEは59.515%です。  
回答はEntityメトリクスを元にしてしています。  
メトリクスについての回答は以下の情報をもとにして  
しています。

ライン2 (root->会社->SF0工場->ライン2)  
OEE @ 2024-05-28 20:23:00 (-07:00)

ライン2 (root->会社->TY0工場->ライン2)  
OEE @ 2024-05-29 12:23:00 (+09:00)

(edited)



**Hyuma Watanabe** 6:23 PM

明日のことを考えると胸がドキドキします



**BizStack Assistant - dev** APP 6:23 PM

明日のことを考えると胸がドキドキしますね。何か他に質問があればお知らせください。お手伝い  
できることがあればお手伝いします。

回答はシステムが利用しているLLMが持つ一般的な知識を元にしてしています。LLMからの情報は正確性  
や最新性に欠ける可能性があるため、必ずご自分でもご確認ください。 (edited)

MODE は、BizStack Assistant が多くの現場で実際に使用されることで改良を重ね続け、企業の現場 DX の推進を強力にサポートいたします。